

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

「書く能力」の定着に課題が残る

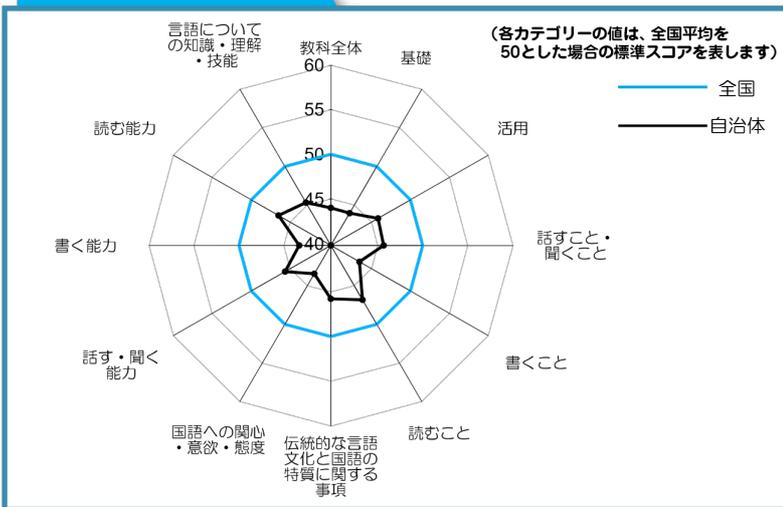
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	
教科全体		70.9	65.9	★
基礎		72.7	67.9	★
活用		63.0	57.3	★
領域別	話すこと・聞くこと	70.0	68.9	★
	書くこと	55.0	32.1	★
	読むこと	67.5	60.8	★
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.3	78.5	★
観点別	国語への関心・意欲・態度	65.6	56.5	★
	話す・聞く能力	70.0	68.9	★
	書く能力	56.0	37.2	★
	読む能力	65.0	58.1	★
	言語についての知識・理解・技能	77.0	76.2	★

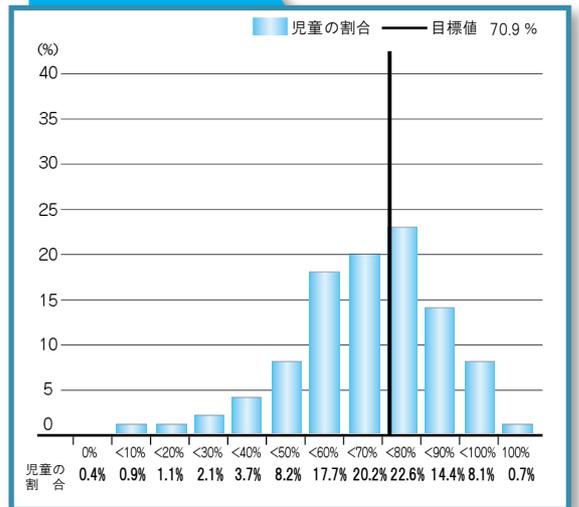
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が65.9%
- で、目標値を5.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「書く能
- 力」が37.2%で、目標値を18.8ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 相手や目的を意識して、行事の説明と、来てくれるよう呼びかける文章を書くことができる。

目標値 60.0% 正答率 33.4% 差 ▲26.6 ポイント

指導のポイント 本問は、第二段落に、次回の行事の予定と、クラスの人に来てもらうよう呼びかける言葉を書くことができるかを見る問題である。伝える相手や目的を意識して書くことが重要である。日頃から、文章を書くにあたっては、書く目的をはっきりさせ、誰が読むのかという相手意識をもたせることが大切である。その上で、身近な出来事について、気軽に文章を書けるようにしたい。

せつ明文の内よよを読みとる

大問5(2)

<ねらい> 文章の内容を的確に読み取ることができる。

目標値 50.0% 正答率 38.1% 差 ▲11.9 ポイント

指導のポイント 細かい点に注意しながら文章を読むことができるかを見る問題である。日常の学習では、こうした詳細な読解に偏りすぎないことも大切であるが、詳細な読解を行わなければ身に付かない言葉の力もある。読むことの教材を扱うにあたり、そこでのねらいをはっきりさせて、大事な部分については詳細な読解も取り入れていくようにしなければならない。

小3 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

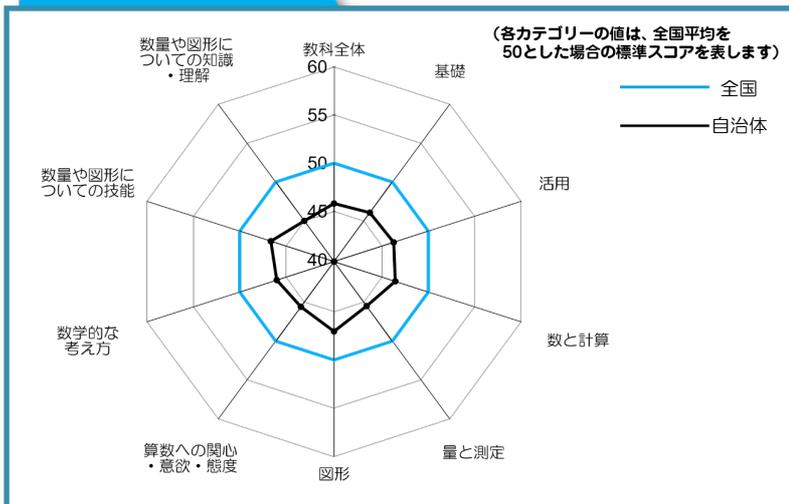
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		70.3	62.0	★										
基礎		77.0	69.8	★										
活用		50.0	38.4	★										
領域別	数と計算	71.7	64.9	★										
	量と測定	68.3	56.6	★										
	図形	65.0	54.6	★										
観点別	算数への関心・意欲・態度	65.5	54.2	★										
	数学的な考え方	59.3	48.3	★										
	数量や図形についての技能	72.8	65.9	★										
	数量や図形についての知識・理解	75.0	65.8	★										

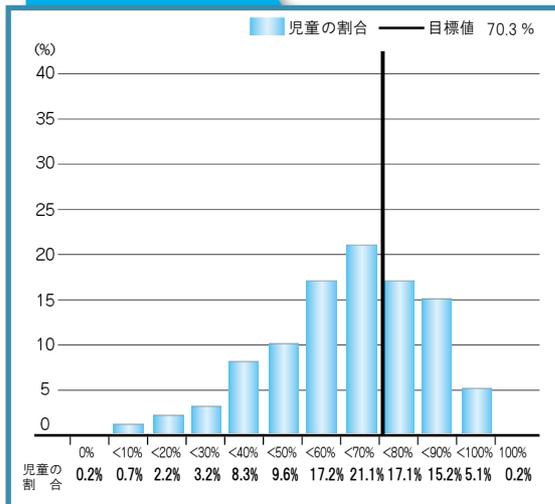
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が62.0%
- で、目標値を8.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数への関心・意欲・態度」が54.2%で、目標値
- を11.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

長さ

大問11(1)

<ねらい> 道のりの意味を理解し、地図から道のりを読み取ることができる。

目標値 80.0% 正答率 47.6% 差 ▲32.4 ポイント

指導のポイント 誤答の多くは、道のりと距離の意味を混同してしまったものと考えられる。道のりは道に沿って測った長さ、距離はまっすぐに測った長さである。教科書の地図だけでなく、学区域の地図などを用いて道のりを求める練習を積んだり、学校の周りを歩いたりして、道のりと距離の違いを実感できるようにする活動が大切である。また、日頃から、用語を正しく使うように指導することも重要である。

円と球

大問14

<ねらい> 球が3個入った箱のつつの高さから、球の半径を求めることができる。

目標値 55.0% 正答率 35.4% 差 ▲19.6 ポイント

指導のポイント 球が3個入ったつつの高さから、球の半径を求める問題である。直径、半径という用語については、「直」や「半」など、使われている漢字にも着目させ、半径の「半」という漢字が何の半分を意味しているのかを理解させる必要がある。なお、球の場合は円と違い、半径や直径が見えにくいので、球を半分に切った模型を用意するなど、操作をしながら理解させる指導を行うことが大切である。

「書く能力」の定着に課題が残る

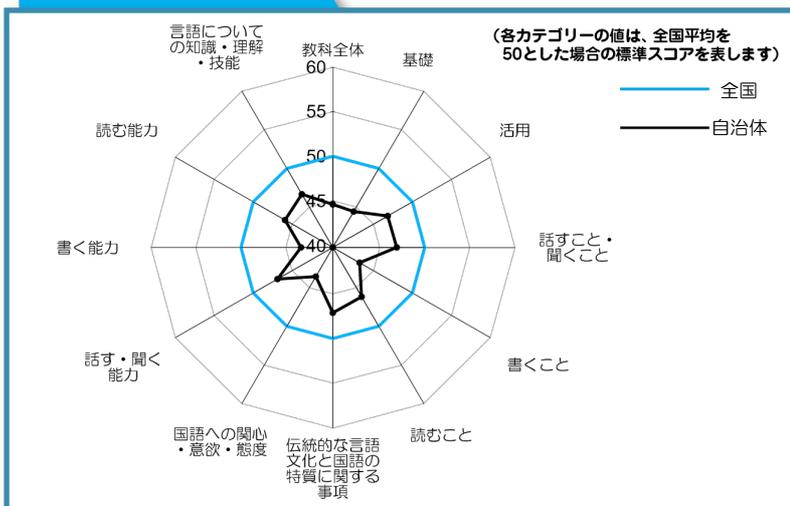
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		68.8	64.6											
基礎		70.2	65.3											
活用		62.0	61.7											
領域別	話すこと・聞くこと	75.0	80.4											
	書くこと	56.7	38.2											
	読むこと	72.1	69.8											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	70.9											
観点別	国語への関心・意欲・態度	63.8	55.0											
	話す・聞く能力	75.0	80.4											
	書く能力	56.5	39.4											
	読む能力	69.7	66.8											
	言語についての知識・理解・技能	70.6	69.2											

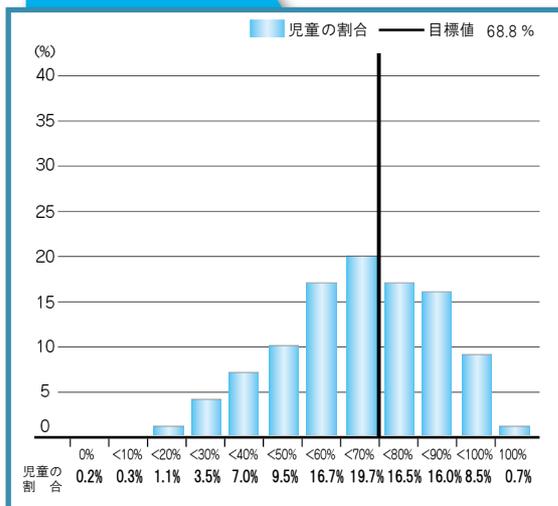
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が64.6%
- で、目標値を4.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「話す・聞く能力」が80.4%で、目標値を5.4ポイント上回った。一方、「書く能力」が39.4%で、目標値を17.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 指定された長さで文章を書くことができる。

目標値 65.0% 正答率 37.8% 差 ▲27.2 ポイント

指導のポイント ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くかという見通しをもつことが必要になる。本問では、そうしたヒントが「注意する点」になっている。これを参考にすることで、第一段落と第二段落に何を書かなくてはならないかが分かる。また、児童にとって、書くことの学習で難しいことの一つに、文章の書き出しが挙げられる。問題文にある文言を使えば、書き出しが簡単にできることを、繰り返し指導して習得させたい。

物語の内ようを読み取る

大問4(2)

<ねらい> 登場人物の様子を読み取ることができる。

目標値 65.0% 正答率 52.4% 差 ▲12.6 ポイント

指導のポイント 文学的な文章において、登場人物の言動から心情や様子を読み取ることは、基本となる読み方の一つである。本問では、設問部の直前の部分を丁寧に読み取れば足りる。長い文章であっても、それぞれの場面で登場人物がどのような様子であったのか、きちんと読み取れるようにしておきたい。

小4 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

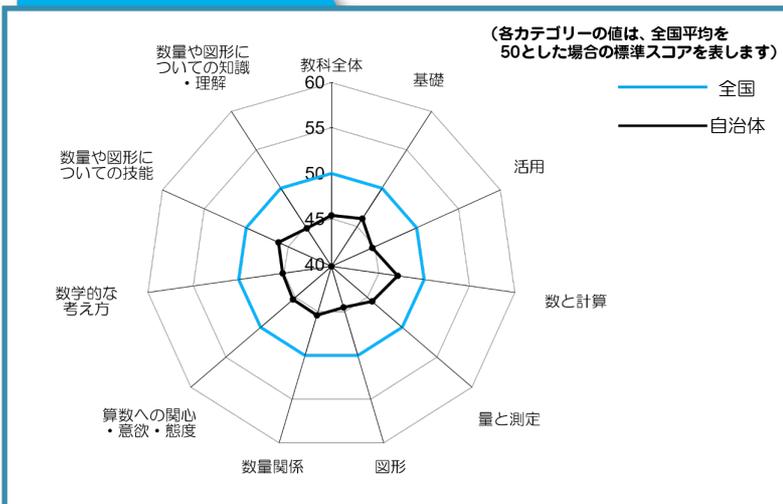
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		68.1	58.3											
基礎		72.4	64.8											
活用		55.0	38.6											
領域別	数と計算	73.1	66.9											
	量と測定	64.3	50.8											
	図形	56.3	38.4											
	数量関係	65.7	54.9											
観点別	算数への関心・意欲・態度	56.3	42.9											
	数学的な考え方	62.0	49.4											
	数量や図形についての技能	70.9	61.9											
	数量や図形についての知識・理解	66.7	56.1											

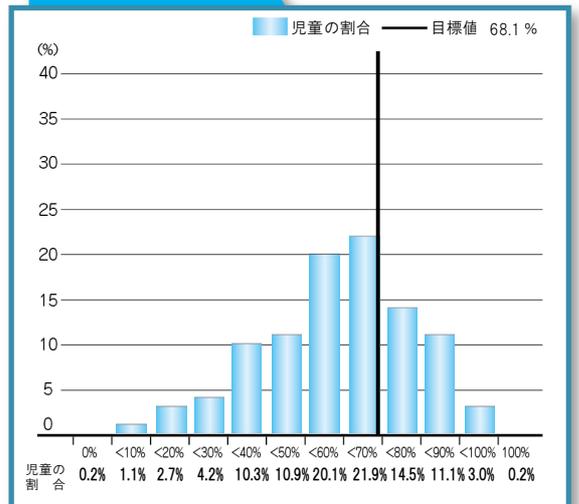
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が58.3%
- で、目標値を9.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数への
- の関心・意欲・態度」が42.9%で、目標値
- を13.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

垂直・平行と四角形

大問18(3)

<ねらい> 対角線の長さの合計が1つの対角線の長さの2倍になるわけ、長方形の対角線の特徴から考えることができる。

目標値 50.0% 正答率 26.8% 差 ▲23.2 ポイント

指導のポイント 第4学年では、対角線について学習する。いろいろな四角形の図に対角線をかき入れる活動により、四角形によって対角線の長さや交わり方が違うことを捉えさせたい。また、このような知識の獲得だけではなく、それらの四角形に共通していることは何かを考えさせ、図形についての見方を深めさせる指導を行うことが必要である。

わり算

大問2

<ねらい> わり算の筆算に出てくる数の意味を理解している。

目標値 50.0% 正答率 28.0% 差 ▲22.0 ポイント

指導のポイント わり算の筆算の指導では、はじめに10の束を等分し、次にばらを等分するという操作を行う。このとき、10の束を等分したときの商が十の位に立つ。本問では、8束のうち6束が等分されたことになる。このように、操作と形式的な筆算とを結び付けながら指導し、筆算の意味を理解できるようにさせることが大切である。

「書く能力」の定着に課題が残る

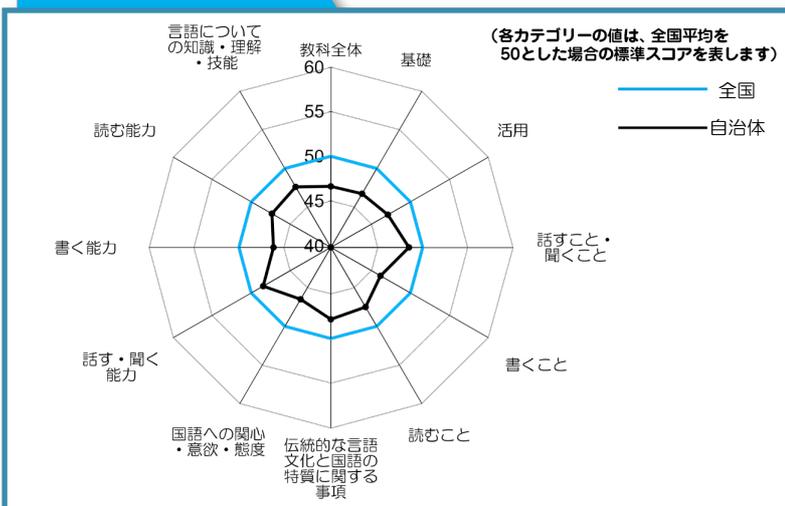
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		68.6	67.4											
基礎		69.8	68.7											
活用		63.0	61.1											
領域別	話すこと・聞くこと	73.3	73.2											
	書くこと	64.2	58.4											
	読むこと	66.4	65.0											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	71.8											
観点別	国語への関心・意欲・態度	66.9	64.1											
	話す・聞く能力	73.3	73.2											
	書く能力	63.1	56.9											
	読む能力	65.0	63.7											
	言語についての知識・理解・技能	70.8	71.2											

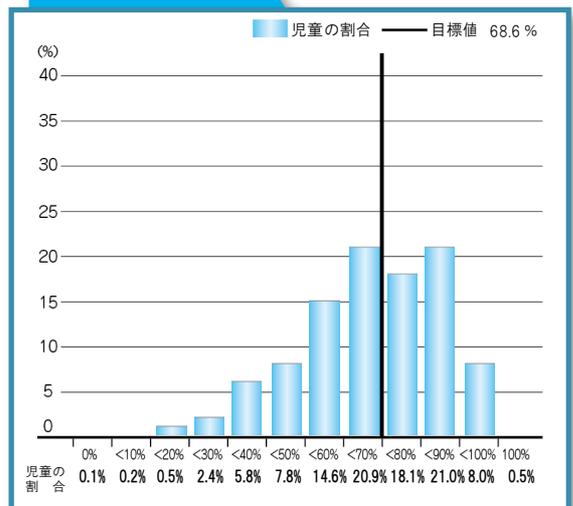
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が67.4%
- で、目標値を1.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語について
- の知識・理解・技能」が71.2%で、目標値
- を0.4ポイント上回った。一方、「書く能
- 力」が56.9%で、目標値を6.2ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)④

<ねらい> 第4学年配当漢字を書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 48.0% 差 ▲22.0 ポイント

指導のポイント 漢字については、文脈に沿って読む力だけでなく、正しく書く力を育てる必要がある。文を書く際には、漢字自体の意味を考えながら、正しく使えるように指導することが大切である。また、他教科における書く活動や宿題の中で繰り返し書かせることにより、漢字を書くことに対する抵抗感をなくすことも重要である。

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 57.4% 差 ▲12.6 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。第一段落には、三つの案のうち、普段の生活で心がけたいことわざはどれかを、第二段落には、自身の体験を交えながら、選んだ理由を書くことが求められている。作文にあたっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を養っていききたい。

小5 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

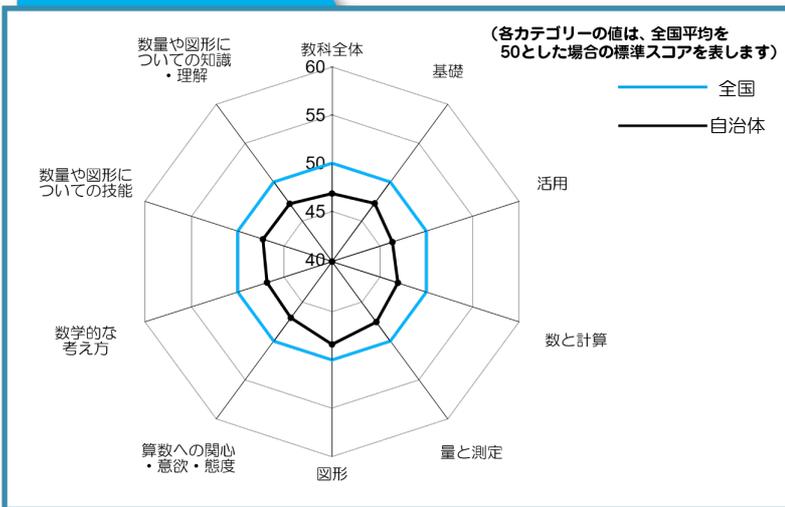
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		62.1	55.7	★										
基礎		66.7	61.9	★										
活用		42.9	30.0	★										
領域別	数と計算	67.4	61.4	★										
	量と測定	43.1	35.7	★										
	図形	68.3	61.8	★										
観点別	算数への関心・意欲・態度	47.0	34.0	★										
	数学的な考え方	48.8	40.8	★										
	数量や図形についての技能	68.8	63.8	★										
	数量や図形についての知識・理解	61.7	54.8	★										

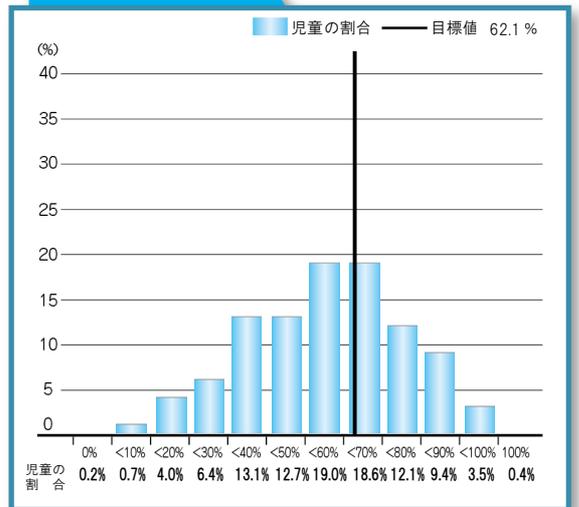
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が55.7%
- で、目標値を6.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数への
- の関心・意欲・態度」が34.0%で、目標値
- を13.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

体積

大問21(2)

<ねらい> 問題の場面を理解して、立方体の箱を作るときに切り取る正方形の1辺の長さを求めることができる。

目標値 30.0% 正答率 10.2% 差 ▲19.8 ポイント

指導のポイント 前問の(1)を解くことを通して、四隅の正方形が大きければ大きいほど、箱の底面は小さくなることに気付くことができれば、立方体の定義を基に、厚紙の1辺60cmを3等分することを理解することができるであろう。日頃から、問題を解く方法を言語化し、説明する活動を設定することで、論理的な考え方を育成していきたい。

合同

大問19

<ねらい> 合同な三角形を作図できる条件がわかる。

目標値 40.0% 正答率 25.3% 差 ▲14.7 ポイント

指導のポイント 合同な三角形の作図指導においては、作図の方法を考えさせ、三角形の合同条件を利用した3つの方法を見いださせることが大切であるが、作図技能を高めることも大切である。3つの方法をまとめて覚えることで終わりにするのではなく、3つの方法で何度も作図をすることで、技能を高め、三角形の合同についての理解を深めていきたい。

「書く能力」の定着に課題が残る

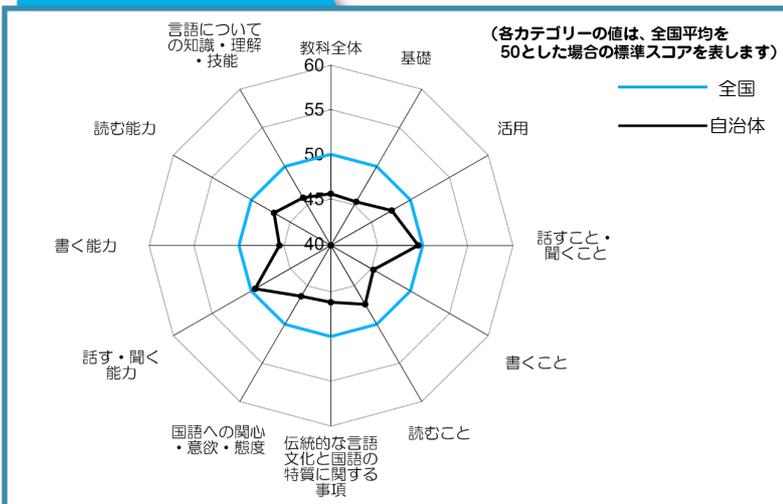
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		69.3	68.8	[Bar chart showing 68.8%]										
基礎		73.3	72.5	[Bar chart showing 72.5%]										
活用		51.0	51.8	[Bar chart showing 51.8%]										
領域別	話すこと・聞くこと	60.0	63.0	[Bar chart showing 63.0%]										
	書くこと	65.0	58.9	[Bar chart showing 58.9%]										
	読むこと	80.7	84.0	[Bar chart showing 84.0%]										
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.1	66.3	[Bar chart showing 66.3%]										
観点別	国語への関心・意欲・態度	61.9	59.8	[Bar chart showing 59.8%]										
	話す・聞く能力	60.0	63.0	[Bar chart showing 63.0%]										
	書く能力	61.9	56.6	[Bar chart showing 56.6%]										
	読む能力	76.3	78.8	[Bar chart showing 78.8%]										
	言語についての知識・理解・技能	67.4	66.2	[Bar chart showing 66.2%]										

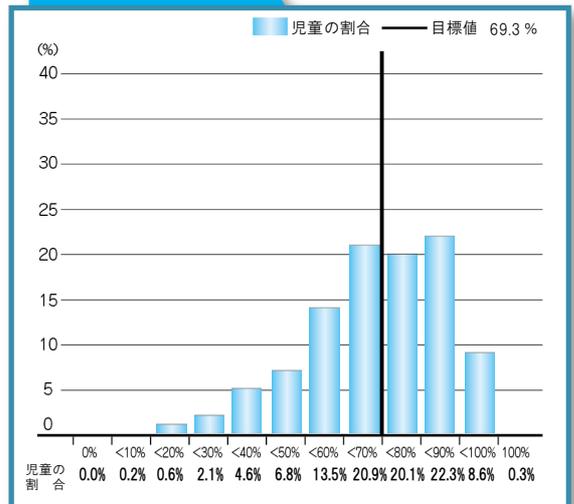
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が68.8%
- で、目標値を0.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「話す・聞く能力」が63.0%で、目標値を3.0ポイント上回った。一方、「書く能力」が56.6%で、目標値を5.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)④

<ねらい> 第5学年配当漢字を書くことができる。

目標値 70.0% 正答率 52.1% 差 ▲17.9 ポイント

指導のポイント 学校では、漢字練習や小テストを繰り返しているが、定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ文字を1ページ書くよりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文として漢字を使う練習をする方が望ましい。問題のように、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校では、さまざまな教科の文章を書く活動で、分からない漢字はすぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 75.0% 正答率 64.2% 差 ▲10.8 ポイント

指導のポイント 作文を書く問題では、「何を」「どのように」書くのかを理解した上で書くことが大切である。第1段落で、本問の俳句の最後に入れる言葉は、「すくすくと」と「笑ってる」のどちらがよいと思うかを書き、第2段落で、それがよいと思う理由を書く。重要なのは、意見と理由を二つの段落に分けて書くこと、第2段落では、「すくすくと」にしたときと「笑ってる」にしたときの違いが分かるように書くことである。日頃から、自分の考えや感想をもつ訓練と、200字程度の短い文章を書きまとめるなどの伝え合う力を高める指導を行いたい。

小6 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

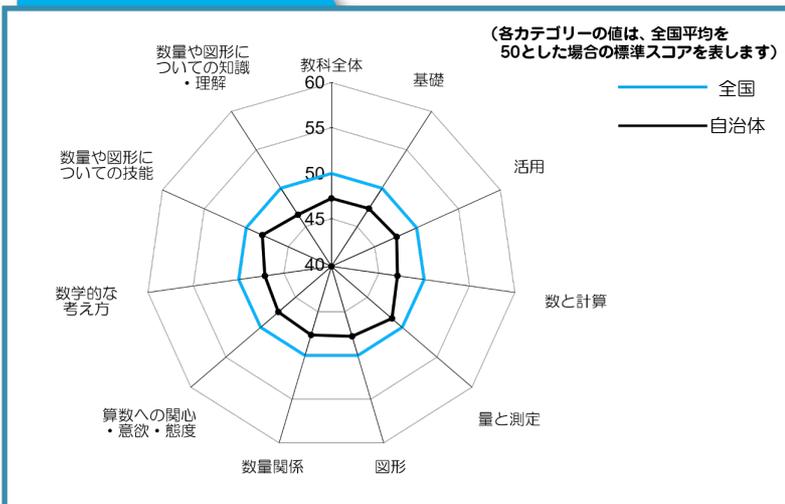
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		70.8	66.8											
基礎		72.8	69.7											
活用		62.9	54.7											
領域別	数と計算	73.8	69.6											
	量と測定	67.2	64.4											
	図形	75.0	70.2											
	数量関係	65.0	60.0											
観点別	算数への関心・意欲・態度	60.0	51.5											
	数学的な考え方	59.3	52.8											
	数量や図形についての技能	74.6	72.3											
	数量や図形についての知識・理解	73.6	68.2											

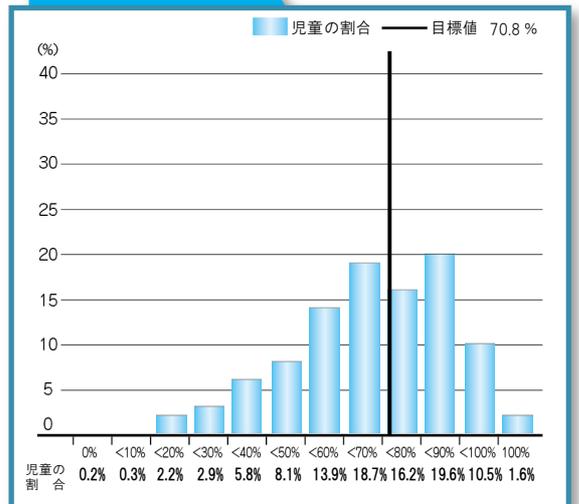
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が66.8%
- で、目標値を4.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数への
- の関心・意欲・態度」が51.5%で、目標値
- を8.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 分数の除法の文章問題を表した図がわかる。

目標値 75.0% 正答率 60.1% 差 ▲14.9 ポイント

指導のポイント 扱う数が分数になると、かけるのかわるのか、わる場合はどちらをどちらでわるのかわ見えにくくなる。この場合は、数量の関係を簡潔に表す道具として数直線を使い、数直線上に問題場面の数量の関係を正しく表せば、どんな演算になるかが分かる。数直線をかけるようにすること、数直線から演算の決定ができるようにすることが大切である。かけ算やわり算の問題場面では、必ず数直線をかかせるように指導するとよい。

面積と体積

大問16(2)

<ねらい> 円を含む複雑な図形の面積について読み取り、求めることのできる同じ面積の図形を答えることができる。

目標値 55.0% 正答率 42.7% 差 ▲12.3 ポイント

指導のポイント 図形の面積を求める問題は、一見複雑なものでも、図形の一部を移動することで単純な問題になることがある。面積の指導にあたっては、等積変形や倍積変形、移動などの考え方を十分に理解させ、複雑な図形が単純な図形に変わっていく様子を実感させたり、公式を用いて解決できることよきを実感させたりすることが大切である。